



## 存在と所有の間--モンゴル語の存在文と所有文の意味論

メタデータ	言語: jpn 出版者: 北海道言語研究会 公開日: 2012-02-01 キーワード (Ja): キーワード (En): existence, possession, cline, animacy, possessor, possessee 作成者: 橋本, 邦彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/694">http://hdl.handle.net/10258/694</a>

## 存在と所有の間--モンゴル語の存在文と所有文の意味論

その他（別言語等） のタイトル	Between existence and possession: the semantics of existential sentences and possessive sentences in Mongolian
著者	橋本 邦彦
雑誌名	北海道言語文化研究
巻	8
ページ	105-127
発行年	2010-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/694">http://hdl.handle.net/10258/694</a>

## 存在と所有の間

### —モンゴル語の存在文と所有文の意味論—\*

橋本 邦彦

## Between Existence and Possession

### —The Semantics of Existential Sentences and Possessive Sentences in Mongolian—

Kunihiko HASHIMOTO

**Abstract** : The purpose of this paper is to elucidate what differences lie between existential sentences and possessive sentences in the Mongolian language. The language has three linguistic devices to make the existential constructions and the possessive ones: the final particle *bij*(бий), the auxiliary verb *baj*-(бай-), and the possessive suffix *-taj<sup>3</sup>*(*-taj/-tej/-toj* (-тай/-тэй/-той)). The particle typically expresses existence, while the suffix indicates possession. The auxiliary verb can carry both of them. Besides that, sometimes *bij* stands for possessive meanings, and sometimes *-taj<sup>3</sup>* represents existential meanings. The tangled web of their functions, as the paper explains, will be untangled by using several semantic factors including clines as well as morpho-syntactic forms.

キーワード : existence possession cline animacy possessor possessee

#### 1. はじめに

人や物の存在を表す言語手段として、英語には THERE 構文がある。

(1) a. *There is* a friend of yours at the door.

(玄関にあなたの友だちが来ているよ。)

b. *There is* a new Italian restaurant on Higashi Street.

(東通りに新しいイタリア料理店があります。)

(1a)、(1b)では There+be 動詞の後に存在者/物「あなたの友だち」、「新しいイタリア料理店」、及び存在場所「玄関に」、「東通りに」が、それぞれこの順序で続いている。確かに、THERE

構文は典型的な存在文であるが、意味的に存在ではなく所有を表しているような例に遭遇する場合がある。

- (2) a. **There are** several friends of his in Korea.  
(韓国に彼の友人が数名おります。)  
b. **There is** much money in my bank account.  
(私の銀行口座には多額のお金があります。)

(2a)も(2b)も(1a)、(1b)と同じ THERE 構文であるが、存在の意味よりも所有の意味の方が強いように思われる。その証拠として、所有文を作る have 動詞で言い換えることが可能である。

- (3) a. He **has** several friends in Korea.  
b. I **have** much money in my bank account.

これと反対の現象が、典型的な所有文を表す HAVE 構文で観察される。

- (4) a. Her aunt **has** eight children.  
(彼女の叔母さんには8人の子どもがいます。)  
b. I **have** a brand-new type of hybrid car.  
(私は新型のハイブリッド車を持っています。)

(4a)、(4b)では have 動詞を挟んで所有者の主語「彼女の叔母さん」、「私」と所有物の目的語「8人の子ども」、「新型のハイブリッド車」が配置されている。これらの文に対比させて、次の文を見てみよう。

- (5) a. They **had** a few supporters helping them.  
(彼らを助けてくれる数名の支援者がいました。)  
b. My jacket **has** two buttons missing.  
(私のジャケットには2つボタンがありません。)  
【2文とも Quirk et al. 1985: 1411】

(5a)、(5b)は形態統語的には(4a)、(4b)と全く同じであるが、意味的には存在文に傾斜していることが、THERE 構文と置き換えられる事実から確認できる。

- (6) a. **There were** a few supporters helping them.  
b. **There are** two buttons missing on my jacket.

存在文に所有を表す例がある一方で、所有文に存在を表す例がある。いったい、存在と所

有を分ける基準はどこにあるのだろうか。両者を隔てる言語的特徴とはどのようなものなのだろうか。

モンゴル語にも、英語同様、存在文と所有文を作る言語的手立てがある。存在文は文末の不変化詞 *bij* により典型的に表されるのに対し、所有文は名詞語幹に付く接尾辞 *-taj<sup>3</sup>* により形成される<sup>1)</sup>。さらに英語の BE 動詞に対応する *baj-* は、存在文にも所有文にも広範囲に渡って用いられている。そればかりか、*bij* は所有文に現れ、*-taj<sup>3</sup>* が存在文を表す場合さえ見られる。ことは形態統語的な接近法だけでは処理しきれないのである。

本論文では、*bij* 型、*baj-* 型、*-taj<sup>3</sup>* 型の存在文と所有文を丹念に観察し分析することで、文型や時制/相といった形態統語的な側面からだけでなく、<存在場所/所有者の有性性>、<存在者・物/所有者の指示対象>などの意味的特徴にも着目して、連続性の視点から存在と所有の間の実相に迫っていく。

第2節では、三つのタイプの存在文を、第3節では同じく三つのタイプの所有文を取り上げて考察する。第4節は結論で、*bij* と *baj-* と *-taj<sup>3</sup>* がある種の特徴を共有しながら、独自の守備領域を持つ事実を提示する。

## 2. 存在文

### 2.1. *bij* (бий)型存在文

*bij* は存在を表す終助詞(*final particle*)、もしくは不完全動詞(*defective verb*)と考えられ、典型的な存在文を形成する。基本語順は(7)の通りである。

(7) [与位格形(*Dative-Locative*)NP: NP-*d/t<sup>21</sup>*] + [主格形(*Nominative*)NP: NP- $\emptyset$ ] + [*bij*]<sup>3), 4)</sup>

与位格形名詞句は存在の場所(*location*)を、主格形名詞句は存在者/物(*entity*)を示す。

(8) [Ulaanbaatar-*t*]            [<*Dörvön uul*>,            <*Dalaj eež*>,            <*Xar xorin*>,  
ウランバートル-D/L    ドゥルブン・オール    ダライ・エージュ    ハル・ホリン  
*geed olon            xüc-n-ij            zax*]            [*bij*].  
QUT    たくさんの    食料品-n-G    市場:N    ある

(ウランバートルには『ドゥルブン・オール』、『ダライ・エージュ』、『ハル・ホリン』  
といったたくさんの食料品市場があります。)【S-B: 164】<sup>5)</sup>

(8)は「ウランバートル」という場所に「食料品市場」が存在することを表している。従来、*bij* の意味については、次のような様々な説明が与えられてきた。

(9) *bij* の用法 :

- a. しばしば *baj-na* “*be-PRS*”<sup>6)</sup> と同じ意味である。時として可能性/見込み(*likelihood*)を反映する。話し手は、それほど実際の証拠を持たずに、陳述が真であることを想定

している。(Street 1997: 159)

- b. 所有者外の存在を示す。あるものが、ある場所、地域、空間等に存在する場合に用いられる。(小沢 1986: 44)
- c. 何かの「存在」が話し手にとって既知の事柄である場合や、恒常的な「存在」である場合に用いられる。(岡田 1989: 23)

(9a)は(9c)の主張する「存在の既知性」とは明らかに矛盾する。(9b)の「所有者外の存在」と(9c)の「存在の恒常性」は、検証に値する言説である。以下では、これら三点を念頭に置きつつ、bij 型存在文のデータを見ていくことにする。

①空間的な存在の場所：

- (10) Ulaanbaatar xot-o-d Xevlex üjldver, Savangijn zavod, Maxkombinat,  
ウランバートル:Ø 市-EP-D/L 印刷工場:N 石鹼工場:N 肉コンビナート:N  
Ix surguul', Caxilgaan gerlijn kombinat, Töv suvilal zereg olon alban gazar **bij**.  
大学:N 電気コンビナート:N 中央病院:N など たくさんの 公共機関:N ある  
(ウランバートル市には、印刷工場、石鹼工場、肉コンビナート、大学、電気コンビナート、中央病院などたくさんの公共機関があります。) 【O: 36】

(10)は(8)と同様に、「ウランバートル市」という空間の中に列挙された「公共機関」が存在することを述べている。この例は(9b)と(9c)の説明に合致するが、(9a)の「話し手は、それほどの証拠を持たずに、陳述が真であることを想定」という主張とは相容れない。

②空間的な存在の位置関係：

- (11) Ulaanbaatar-t xot-iyin ömnö züg-t Čojbalsan uul **bij**.  
ウランバートル-D/L 市-G 南の 方角-D/L チョイバルサン山:N ある  
(ウランバートルの南の方角にチョイバルサン山があります。) 【O: 35】
- (12) Süxbaatar-iyin xöšöö-n-ij xojd tal-d neg tom saaral bajšin **bij**.  
スフバートル-G 銅像-n-G 北の 側-D/L 1つ 大きい 灰褐色の 建物:N ある  
(スフバートルの銅像の北側に大きな灰褐色の建物があります。) 【S-B: 53】
- (13) Sambar-iyin deed tal-d xuv'sgal-iyin ix udirdagč D. Süxbaatar-iyin zurag  
黒板-G 上の 側-D/L 革命-G 偉大な 指導者 スフバートル-G 肖像画:N  
**bij**.  
ある  
(黒板の上側に革命の偉大な指導者 D.スフバートルの肖像画があります。) 【U: 22】

(11)~(13)はすべて与位格形名詞句が存在物の位置を特定する基準点として機能してする存在物の位置関係を表示する例である。空間の位置関係を表す存在文であるから、(9b)と(9c)の説明に一致するが、(9a)のとはかみ合わない。また、「山」、「建物」、「肖像画」は比較的長

い時間幅で存在し続けるので、(9c)の「恒常性」に適合する。

③抽象度の高い存在の場所：

- (14) *Önöödör žišee n' xuvijn "Golomt" ulsiyn "Xudaldaq xögžil" -ijn bank baj-na*  
今日 たとえば 民間の ゴロムト 国立の 貿易 振興 -G 銀行: ∅ be-PRS  
*l daa. Tedend al' ali-n-d n' biznes-ijn orčin n' bij gež*  
FOC CNF 3PL:D/L どれこれ-n-D/L 3PRC ビジネス-G 環境:N 3PRC ある QUT  
*üz-e-ž baj-na.*  
見る-EP-ICC be-PRS

(今日、たとえば民間の『ゴロムト』銀行は、国立の『貿易振興』銀行にすぎないんですよね。それらのあらゆる所にビジネス環境があると見ています。) 【ÖS: 2001.8.29.】

- (15) *Ta xon' garg-a-x-iyg üz-sen udaq bij üü?*  
2SG:N 羊: ∅ 屠る-EP-NPS-ACC 見る-PF 機会:N ある Q

(あなたは羊を屠るのを見たことがありますか。) 【金岡 2009: 148-149】

(14)の第二文の与位格形名詞句「それらのあらゆる所に」は前文の「民間のゴロムト銀行」を指しているが、物理的空間としての「銀行」ではなく、組織としての機能に関わった抽象度の高い空間である。同様に、(15)も、存在の場所が与位格形の *tand* ではなく主格形 *ta* であることは別にして、存在物は「羊を屠るのを見る機会」という抽象度の高い事態であり、文全体で経験を表している。「あなた」という場に「機会」が存在するかと問うているのである。これらの文は、文字通りの場所・地域・空間ではなく、また「恒常性」の度合いも低いという点で、(9a)、(9b)、(9c)のいずれの説明とも合致しないように思われる。

(7)の基本語順の他に、若干数であるが、主格形名詞句の先行する場合がある。

- (16) [主格形 NP: NP-∅] + [与位格形 NP: NP-d/t] + [bij]<sup>7)</sup>

- (17) *Alim adil ulaan xacar-taj xüüxen Mongol-d bij.*

リンゴ: ∅ のような 赤い ほっぺ-POS 娘:N モンゴル-D/L いる

(リンゴのような赤いほっぺの娘さんたちがモンゴルには大勢います。) 【K&Ts: 287】

(7)と(16)の語順による意味の違いがどこにあるのか現段階ではわからないが、第3節で考察する所有文との関係で見ていくと、何らかの手がかりが得られるかもしれない。

## 2.2. baj- (бай-)型存在文

baj-は英語の Be 動詞に相当する働きをし、存在文にもコピュラ文にも用いられる。baj-型の存在文についての主な説明は、次のとおりである。

- (18) a. 所有者自体における存在を示す。あるものが所有者自体に存在する場合に用いられる。(小沢 1986: 44)  
b. 何かの「存在」を見たり確認したりした結果、話し手にとって未知の事柄である場合や、一時的な「存在」である場合に用いられる。(岡田 1989: 23)

(18a)の述べるいわゆる所有の「不可分離性」や(18b)の述べる存在の「未知性」、「一時性」が実際に効力を持っているのかどうかを考慮しつつ、以下でデータを検証することにしよう。baj-型の存在文には(19)に挙げるように2つのタイプがあるが、どちらが優勢であるかどうかの違いはないように思われる。

- (19) a. [与位格形 NP: NP-d/t] + [主格形 NP: NP-∅] + [baj-]<sup>8)</sup>  
b. [主格形 NP: NP-∅] + [与位格形 NP: NP-d/t] + [baj-]

bij 型同様、与位格形名詞句は存在の場所(location)を、主格形名詞句は存在者/物(entity)を示す。各例文は、(19a)タイプと(19b)タイプを並置する形で提示する。

- (20) Angi-d sambar, šüügee, širee, sandal **baj-na**.  
教室-D/L 黒板:N 戸棚:N 机:N 椅子:N ある-PRS  
(教室には黒板、戸棚、机、椅子があります。) 【U: 22】
- (21) Bagš-ijn üzeg cünx-e-n-d **baj-na**.  
先生-G ペン:N バッグ-EP-n-D/L ある-PRS 【AE】  
(先生のペンはバッグの中にあります。)
- (22) A: Ger-t olon xün **baj-na** uu?  
ゲル-D/L 大勢の 人:N いる-PRS Q  
(ゲルには大勢の人がいますか。)  
B: Ügüj, cöön xün **baj-na**.  
いいえ 少ない 人:N いる-PRS  
(いいえ、あまり人はいりません。) 【AE】
- (23) Minij ax ger-t-ee **baj-na**.  
1SG:G 兄:N ゲル-D/L-REF いる-PRS  
(私の兄は家にいます。) 【K&Ts: 363】
- (24) End süü č **baj-na**, tarag č **baj-na**.  
ここに ミルク:N も ある PRS ヨーグルト:N も ある PRS  
(ここにはミルクもあるし、ヨーグルトもあります。) 【AE】
- (25) Minij nom end **baj-na**.  
1SG:G 本:N ここに ある-PRS  
(私の本はここにいます。) 【AE】

(20)、(22)、(24)では、存在の場所を示す与位格形名詞句が文頭に現れ、存在者/物を表す主格形名詞句がそれに後続するのに対し、(21)、(23)、(25)ではその語順が逆転している。存在者/物の「黒板、戸棚、机、椅子」(20)、「ペン」(21)、「人」(22)、「兄」(23)、「ミルク、ヨーグルト」(24)、「本」(25)はすべて存在の場の外にあるものとして分離可能な実体ばかりであるから、(18a)の主張とは一致しない。また、語順の相違は、いわゆる「知的意味」に変化をもたらしてはいないが、情報構造から見ると、主格形名詞句(存在者/物)の前置された文(21)、(23)、(25)は、文脈上すでに言及された既知事項と解釈されるので、(18b)の「未知性」との間にも齟齬が生じる。

(18b)の後半、「存在」の「一時性」と整合する例を見つけることができる。

(26) Xüüjij, nana čin' Dorž *baj*-na uu?  
おーい こちら側に 2PRC ドルジ:N いる-PRS Q  
(おーい、君の方にドルジはいるかい?) 【K&Ts: 353】

(27) Xoyor xüüxd-ijn neg n' gadaa *baj*-na.  
二人の 子ども-G 一人:N 3PRC 外に いる-PRS  
(二人の子どもは外にいます。) 【AE】

(26)では聞き手に呼びかけての問いであるから、発話時における「ドルジ」の存在に焦点が当てられる。(27)も発話時での「子ども」の存在が話題になっており、彼らがずっと「外にいる」ことは考えられない。

一方で、(18b)とは反対に、「存在」が恒常的と解釈される例が観察できる。

(28) End zočid buudal *baj*-na.  
ここに ホテル:N ある-PRS  
(ここにホテルがあります。) 【K&Ts: 378】

(29) Zočid buudal galt terg-ijn buudal-aas ojr *baj*-na.  
ホテル:N 列車-G 駅-ABL 近くにある-PRS  
(ホテルは駅の近くにいます。) 【AE】

(28)、(29)の「ホテル」は建築物であるので、その存在のあり方は安定している。なお、(29)は、場所を示す後置詞名詞句「駅」が基準点として主格形名詞句の存在物「ホテル」の位置を特定する文である。

恒常性は、*baj*-に習慣形接尾辞-*dag*<sup>4</sup>が付加することで明示できる。

(30) Zasgijn gazr-iynd ordn-iy ömnöx talbaj-d D. Süxbaatar-iynd xöšöö *baj*-dag.  
政府-G 宮殿-G 前にある 広場-D/L スフバートル-G 銅像:N ある-HBT  
(政府庁舎の前の広場には、D.スフバートルの銅像があります。) 【L:164】

- (31) Avtobus-n-iy buudal šuudan-d *baj*-dag.  
バス-n-G 停留所:N 郵便局-D/L ある-HBT  
(バスの停留所は郵便局の所にあります。) 【AE】

(30)、(31)の *baj*-dag は、*bij* を説明した(9b)「所有者外の存在」と合致するが、*baj*-の用法を記した(18b)「所有者自体における存在」とは合致しない。*baj*-dag が *bij* と用法を共有することは、(32)と(33)が同じ内容を表す事実から確認することができる。

- (32) MUIS Süxbaatar-iyñ talbaj-n züñ tal-d *bij*.  
モンゴル国立大学:N スフバートル-G 広場-G 南の 側-D/L ある  
(モンゴル国立大学はスフバートル広場の南側にあります。) 【AE】

- (33) MUIS Süxbaatar-iyñ talbaj-n züñ tal-d *baj*-dag.  
モンゴル国立大学:N スフバートル-G 広場-G 南の 側-D/L ある-HBT  
(モンゴル国立大学はスフバートル広場の南側にあります。) 【AE】

(32)も(33)も「モンゴル国立大学」が「スフバートル広場の南側」という空間に存在するという位置関係を表示する存在文であるが、これは小沢(1986: 44)の *bij* について述べた「あるものが、ある場所、地域、空間等に存在する場合」に当てはまる。

(18a)の「所有者自体における存在」に当てはまる文が観察できる。

- (34) Budd-iyñ šašin-d xoyor col *baj*-dag.  
ボダド-G 宗教-D/L 2つの 階級:N ある-HBT  
(ボダドの宗教には二つの階級があります。) 【ÖS: 2000. 2. 1.】

(34)の「階級」は「ボダドの宗教」の組織に関わるもので、そこから切り離すことの不可能な不可分離的な属性と考えられる。

明らかに *baj*-にあって *bij* にない機能として、*baj*-はテンスやアスペクトを担うが、*bij* は不変変化詞であるのでそれらを担うことができないことが挙げられる。

- (35) Minij deel ölgüür-t *baj*-g-aa.  
1SG:G 長服:N クローク-D/L ある-EP-IMP  
(わたしのデール(長服)はクロークにあります。) 【K&TS: 193】

- (36) Tom <<saaral bajšin>>-g-ijn ömnö bas neg žižig-xen bajšin *baj*-dag.  
大きい 褐色の 建物 -EP-G 前にもまた 1つの 小さい-EMP 建物:N ある-HBT  
(大きな『褐色の建物』の前にも一つのかかなり小さな建物があります。) 【S&B: 72】

- (37) Tend barag zuu-g-aad xün *baj*-v.  
そこに ほとんど 100-EP-程 人:N いる-PST

(そこには 100 名程の人がいました。) 【CD: 12】

(38) Ger-t aav č *baj*-san, eež č *baj*-san.

ゲル-D/L 父親:N も いる-PF 母親:N も いる-PF

(ゲル(天幕)には父もいたし母もいました。) 【L: 142】

(39) Ta xedij bol-tol xödöö *baj*-x ve?

2SG:N いつ なる-TMN 田舎に いる-NPS Q

(あなたはいつまで田舎にいますか。) 【AE】

(40) Üneg neg davar-taj *baj*-žee.

狐:N 1 つの 子狐-CMT いる-PPST

(狐が一匹の子狐と一緒にいました。) 【U: 10】

(35)では未完了形接尾辞-aa、(36)では習慣形接尾辞-dag、(37)では過去形接尾辞-v、(38)では完了形接尾辞-san、(39)では非過去形接尾辞-x、(40)では完了過去形接尾辞-žee が、それぞれ、*baj*-に付加している。「一時性」や「恒常性」は時制、相の時間の性質に応じて表されるわけである。他方、*bij* はこの性質を持ち合わせていないので、いきおい時間的に安定した、いわゆる「恒常的な存在」を専ら表示することになるのである。

### 2.3. -taj<sup>3</sup> (-тай<sup>3</sup>)型存在文

-taj<sup>3</sup> は、一般に、名詞語幹に付いて所有を表すと説明されている (Poppe 1970: 97, 岡田 1989: 87, Kullmann and Tserenpil 1996: 98, 風間 1999: 98, 塩谷 2007: 37)。語順は、(41)が基本である。

(41) [主格形名詞句: NP-∅] + [NP-taj<sup>3</sup>]

主格形名詞句は所有者(possessor)を、-taj<sup>3</sup> 付き名詞句が所有物(possessee)を表す<sup>9)</sup>。ただし、この接尾辞が所有にではなく、存在に傾斜した例に出会う場合がある。

(42) Ene cangijn až axuj tavan xošuu mal-aas gadna gaxaj, šuvuu olon-*toj*.

この 国営農場:N 5+ 鼻面: ∅ 家畜-ABL 他に 豚: ∅ 鶏: ∅ たくさん-POS

(この国営農場には五家畜(馬、牛、駱駝、山羊、羊)の他に豚と鶏がたくさんいます。)

【AE】

(43) Ter öröö-n-ij gojo xöšing-*tej*.

その 部屋-n-G 美しい カーテン-POS

(その部屋には美しいカーテンがあります。) 【K&Ts: 366】

(42)、(43)で注目したいのは、本来所有者を示す主格形名詞句が、それぞれ「国営農場」、

「部屋」のように、場所を表しているということである。これらの場所に「たくさん（の家畜）」や「カーテン」が存在するのである。

-taj<sup>3</sup> が存在を表す証拠として、bij と交替する例がある。

- (44) Manaj bajr neg tom zočniy öröö, guruvan untlagiyn öröö-*tej*. Bas gal zuuxniy  
1PL:G アパート:N 1つ 大きい 居間: ∅ 3つ+ 寝室-POS また 台所: ∅  
öröö, žižig xaluun usniy öröö-*tej*. Xažuu-d n' žorlon *bij*.  
小さい 浴室-POS 隣り-D/L 3PRC トイレ:N ある  
(私たちのアパートには大きな居間が一つと寝室が三つあります。また、台所と小さな浴室があります。その隣りにはトイレがあります。) 【S-B: 35】

(44)は三つの文から構成されているが、前半の二文では、場所を主格形名詞句が、存在物を-taj<sup>3</sup> 付き名詞句が表している。一方、第三文では、場所を与位格形名詞句が、存在物を主格形名詞句が担い、その後に bij が後続している。-taj<sup>3</sup> と bij の交替とそれに伴う格形と語順の変更は見られるものの、三文ともアパートの部屋の存在を解説するという点では共通している。

### 3. 所有文

所有文でも bij、baj-、-taj<sup>3</sup> が使用されるが、その分布は存在文とは鏡像関係にあり、また独自の制約が加わるように思われる。以下で、-taj<sup>3</sup>、baj-、bij の順に考察していく。

#### 3.1. -taj<sup>3</sup> 型所有文

-taj<sup>3</sup> は典型的に「所有」を表す接尾辞である：「あるものの所有を示す。」(Poppe 1970: 97)；「動作主が何らかの物、特性、属性を所有していることを意味する。」(岡田 1989: 87)；「所属・所有を表す。」(塩谷 2007: 37)。このタイプの所有文の語順は、(41)で示した通りである。

(42)、(43)、(44)では、存在に傾斜した-taj<sup>3</sup> 型の文を取り上げたわけだが、実際、存在と所有との間に位置づけてよいような両義的な意味を示す場合がある。

- (45) Naaš caaš sülž-i-x tenger sajxan nuruu-*taj*.  
ここに そこに 編む-EP-NPS 空:N 美しい 山脈-POS  
(そこここに編みあがる空には美しい山脈が（聳え立って）あります。) 【MX: 167】
- (46) Mongol oron maš olon mal-*taj*.  
モンゴル国:N 非常に たくさんの 家畜-POS  
(モンゴル国にはたくさんの家畜がいます。) 【K&Ts: 219】

(45)、(46)は主格形名詞句「空」、「モンゴル国」が存在の場所を、-taj<sup>3</sup> 付き名詞句「山脈」、「家畜」が存在物を示すという点で、所有文というよりは存在文の解釈が優勢である。もともと、(46)に限って言えば、「モンゴル国」＝「そこに暮らす人々」とメトニミー的に解釈す

れば、所有に傾斜した文ということになる。

主格形名詞句を[-animate]のまま、さらに所有文への傾斜の度合いを強めると、「所属・付属」の意味合いを帯びる。

(47) Manaj surguul' sajaxan bajšin-*taj*.

1PL:G 学校:N 美しい 建物-POS

(私たちの学校には美しい校舎があります。) 【AE】

(48) Ene tol' ter toil-n-oos olon üg-*tej*.

この 辞書:N その 辞書-n-ABL たくさんの 語-POS

(この辞書にはその辞書よりたくさんの語が(記載されて)あります。) 【AE】

(49) Minij üzeg xöx bex-*tej*.

1SG:G ペン:N 青い インク-POS

(私のペンには青いインクが入っています。) 【AE】

(47)、(48)、(49)は「ある場所にある物が存在する」というよりも、「ある場所にある物が所属している/付属している」ことを意味している。「学校」に「美しい校舎」が、「辞書」に「たくさんの語」が、「ペン」に「青いインク」が所属しているのである。

-*taj*<sup>3</sup>が本来の所有を表す場合には、物の所有、人の所有、属性の所有の三つを見出すことができる。

<物の所有>

(50) Bi guč-aad tögrög-*tej*.

1SG:N 30-約 トウグルグ-POS

(私は30トウグルグ程のお金を持っています。) 【L: 157】

(51) Minij avga ax angijn buu-*taj*.

1SG:G 伯父:N 兄:N 別々の 銃-POS

(私の伯父と兄は別々に銃を持っています。) 【U: 14】

<人の所有>

(52) Bi gurban düü-*tej*.

1SG:N 3+ 弟-POS

(私には弟/妹が三人います。) 【K&Ts: 236】

(53) Minij najz olon xüüxed-*tej*.

1SG:G 友人:N たくさんの 子ども-POS

(私の友人には子どもがたくさんいます。) 【AE】

<属性の所有>

(54) Ceceg ceceg öörijn üner-*tej*.

花:N 花:N 自分-G 香り-POS

(花にはそれぞれ独自の香りがあります。) 【AE】

(55) Ter emegtej xüüxed adil genen zan-*taj*.

その 女性:N 子ども: ∅ ような 純真な 性格-POS

(その女性は子どものように純真な性格をしています。) 【K&Ts: 287】

(56) Ger-ijn temee n' gov' nutag-t zerleg-eer orš-dog

ゲル-G 駱駝:N 3PRC ゴビ: ∅ 放営地-D/L 野生の-INS にある-HBT

xuvtgaj-g-aas üüsel-*tej* ge-deg.

野生駱駝-EP-ABL 起源-POS 言う-HBT

(ゲル(天幕)の駱駝はゴビの土地に野生のままいる駱駝に起源を持つと言われていま  
す。) 【MX: 84】

(50)と(51)の<物の所有>では、所有者は「私」、「伯父と兄」の[+human]名詞句、所有物は「お金」、「銃」の分離的なものである。(52)と(53)の<人の所有>では、所有者は「私」、「友人」の[+human]名詞句、所有物は「弟/妹」、「子ども」という親族(kin)を示す語で、一般に、不可分離的所有(inalienable possession)関係を所有者との間に結ぶと考えられている<sup>10)</sup>。(54)、(55)、(56)の<属性の所有>では、所有者の「花」、「女性」、「駱駝」は[-animate]、[+human] = [+animate]、[+animate]のような様々な名詞句を指すが、所有物は一貫して、「香り」、「性格」、「起源」のように所有者が固有に備えている属性である。所有者と所有物の関係は不可分離的と言えよう。

-*taj*<sup>3</sup>型所有文はいくつかの補助動詞を後続させることがある。

(57) [主格形名詞句: NP-∅] + [NP-*taj*<sup>3</sup>] + baj-/bol-/ažee/yav-

baj-は存在文についての従来の説明(18b)で、「一時的な存在」を表す場合に用いられていると説明されていたが、所有文では「一時的な所有」を表すのだろうか。実際、Kullmann and Tserenpil (1996: 194)は、「-*taj*<sup>3</sup>は<恒常的な所有(permanent possession)>、-*taj*<sup>3</sup> + baj-naは<一時的な所有(temporary possession)>を表す」と説明している。

(58) a. Ter uur-*taj* baj-na. <temporary>

3SG:N 怒り-POS いる-PRS

(彼女は[いま]怒っている。)

b. Ter bol uur-*taj*. <permanent>

3SG:N TOP 怒り-POS

(彼女は[性格が]怒りっぽい。) 【K&Ts: 194】

Kullmann and Tserenpil (1996: 194)は(58a)と(58b)を対比させ、*baj-na*の後続する文(58a)が「現在の一時的な状態を表す」一方、*-taj*<sup>3</sup>で終止する文(58b)は「性格のような属性を表す」と述べている。この説明は一見妥当なように見えるが、*baj-na*があるにもかかわらず比較的安定した恒常的な状態を表す例の存在によって支持できないことが判明する。

- (59) *Aduu-n-iy max ilčleg čanar-aar sajn učir ert-n-ees exl-e-n*  
馬-n-G 肉:N カロリー: ∅ 価値-INS よい 理由 ; ので 昔-n-ABL 始まる EP-ASS  
*xüs težeel-d xeregl-e-seer ir-sen tüüx-tej baj-na.*  
食料: ∅ 食料-D/L 利用する-EP-CNT 来る-PF 歴史 POS ある-PRS  
(馬肉はカロリー価が高いので昔から食料に利用してきた歴史があります。) 【MX: 84】
- (60) *Yör-ijn yum, üzegdel n' öör öör-ijn xelber, aguulga-taj baj-na.*  
一般-G もの:N 現象:N 3PRC 自分: ∅ 自分-G 形: ∅ 内容 POS いる PRS  
(一般的な物と現象は、各々の形と内容を持っています。) 【AE】

(59)の語る「馬肉を食料にしてきた歴史」は「昔から」現在に至る事柄なので、一時的な状態とは考えにくい。(60)の「一般的な物と現象が形と内容を持っている」事実は、一時的なことではなく、むしろ普遍的なことである。もっとも、*baj-na*が話し手の発話時における判断を表すモダリティとして機能している可能性も排除できないだろう。

*-taj*<sup>3</sup>に後続する補助動詞の役割は、2.2節の*baj*-型存在文で言及したのと同様に、テンスやアスペクトを担うことである。

- (61) A: *Bat Dorž-i-d yaagaad möngö ög-sön be?*  
バト:N ドルジ-EP-D/L なぜ お金: ∅ 与える-PF Q  
(バトはドルジになぜお金をあげたのですか。)  
B: *Ter ör-tej baj-san učr-aas.*  
3SG:N 借金-POS ある-PF 理由-ABL  
(彼には借金があったからです。) 【K&Ts: 270】
- (62) *Gov' nutag elserxeg xörs-tej baj-dag.*  
ゴビ 地方:N 砂質土壌地帯-POS ある-HBT  
(ゴビ地方は砂質土壌地帯です。) 【AE】

(61A)は過去時の事態についてその理由を問う文で、動詞の完了形が用いられている。それに答える(61B)では、過去時の「借金」の所有を表すため、完了形の*baj-san*が現れる。(62)の習慣形の*baj-dag*は、「ゴビ地方」の特徴=属性として「砂質土壌地帯」があることを表す。

*ažee*、*bol-*、*yav-*についても、同様の説明が当てはまる。

- (63) Cajvar caraj-taj ene avgaj uužim setgel, cecen mergen xün-ij uxaalag xurc  
白っぽい 顔色-POS この 婦人:N 広い 心: ∅ 聡明な 賢い 人-G 賢い 聡明な  
nüd-*tej* a-žee.<sup>11)</sup>  
目 POS ある-PPST  
(白っぽい顔色のこのご婦人は、広い心で聡明な賢い人(特有)のりこうそうな目をしていました。) 【MX: 169】
- (64) Ard-iyn xuv'sgal-iyn ür dund ard tümen erx čölöö-*tej* bol-loo.  
人民-G 革命-G の結果 国民:N 自由-POS なる-RPST  
(人民革命の結果、国民は自由を持つようになりました。) 【AE】
- (65) Bi č ix sonin-*toj* yav-aa šüü.  
1SG:N も たくさんの 面白い物-POS 行く-IMPF CNF  
(私にもたくさんの面白い物があるんですよ。) 【MYA: 32】

(63)では語りの過去表示といってよい *ažee* が後続することで、過去時における「婦人」の「目」の所有を表す。(64)では生起を示す *bol-*「～になる」が過程を含んだ所有を表す。(65)の未完了形の動作動詞 *yav-*「行く」は、「私」の「面白い物」の所有が、発話時以降も継続することを含意する。以上から、*ažee*、*bol-*、*yav-*が所有のあり方にある種の色合いを付ける役割を演じていることがわかる。

名詞語幹+*-taj*<sup>3</sup>が全体で形容詞として振舞う事例が存在する。形容詞には修飾用法(attributive use)と叙述用法(predicative use)の二つがあるが、この場合もそれぞれに対応する形が観察できる。

<修飾用法>

- (66) [Mor'-*toj* xün] ir-e-v.  
馬-POS 人:N 来る-EP-PST  
(馬に乗った人が来ました。) 【K&Ts: 377】
- (67) Ter [minij tuxaj buruu ojlgolt-*toj* xün] yum.  
3SG:N 1SG:G について 誤った 考え-POS 人: ∅ ASR  
(彼は私について誤った思い込みをしている人です。) 【K&Ts: 292】

<叙述用法>

- (68) Cas dun cagaan öngö-*tej*.  
雪:N 真っ白い 色-POS  
(雪は真っ白です。) 【U: 25】
- (69) Ünen xezee č yal-na. Yaagaad ge-vel, ter bol xüč-*tej* yum.  
真実:N いつでも 勝つ-PRS なぜ 言う-CND 3SG:N TOP 力-POS ASR  
(真実は必ず勝利します。なぜなら、それには力があるからです。) 【K&Ts: 325】

(66)、(67)は名詞「人」を修飾する一方で、(68)、(69)は主格形主語「雪」、「それ＝真実」を叙述するコピュラ文の述語として機能している。これらの文は確かに形容詞的ではあるが、分析的に見れば、名詞の原義「馬」、「考え」、「色」、「力」と-taj<sup>3</sup>の「～を所有する」の意味が透けて見える。いわば名詞に傾斜した形容詞用法と言えるかもしれない。因みに、(66)は「馬」という動物の随伴を表す点で、分離的所有であるが、それ以外は不可分離的な属性所有を記述している。

この分析的な意味構造が不鮮明になっていくにつれ、より形容詞に傾斜した用法になる。

(70) Ter ojrdoovč-tej baj-g-aa.

3SG:N 最近 病気-POS いる-EP-IMPF

(彼は最近病気です。) 【K&Ts: 195】

(71) Ene nom bol neg tal-aas ix ašig-taj.

この 本:N TOP 1つの 面-ABL とても 利用-POS

(この本は、ある面、大変役に立ちます。) 【K&Ts: 325】

(72) Bi xožim Mongol-d oč-i-ž üz-e-x sanaa-taj.

1SG:G 将来 モンゴル-D/L 行く-EP-ICC 見る-EP-NPS 考え-POS

(私は将来モンゴルに行ってみたい。) 【HA: 77】

(70)は「病気を持っている」⇒「病気の」、(71)は「利用を持っている」⇒「有用な、役に立つ」、(72)は「考えをもっている」⇒「～したい」のように、分析的に捉えるよりも名詞語幹+ -taj<sup>3</sup>全体で形容詞として受け止める方が自然である。これら三つの文はすべて主格形名詞句から切り離すことができない属性の所有と解釈できる。

さらに分析的解釈から離れると、塩谷(2007: 37)が述べるように、-taj<sup>3</sup>は「形容詞形成」の接尾辞に位置づけられ、所有の意味合いが不透明になる。

(73) Ter üneg met zal'taj (<zal' + -taj).

3SG:N 狐: ∅ のように ずるい 狡猾 POS

(彼は狐のようにずるい。) 【K&Ts: 216】

(74) Tednij bajr-n-ij-xan ix xögžiltej (<xögžil + -tej).

3PL:G 部屋-n-G-CLC とても 陽気な 喜び POS

(彼のルームメイトはとても陽気です。) 【K&Ts: 103】

(75) Ene bol maš züjtej (<züj + -tej).

これ:N TOP 非常に 正しい 規則 POS

(これは非常に正しい＝もっともです。) 【K&Ts: 345】

(73)、(74)、(75)は、それぞれの派生形が示すように、名詞語幹と-taj<sup>3</sup>に分析できるが、名詞の原義を継承しつつも、形容詞として独自の意味を獲得するに至っている。この真正形容

詞のステイタスは辞書の見出し語として掲載されている事実から確認できるだけでなく、次に挙げる非派生的形容詞との対比からも確認することができる。

(76) Mongol mor' biye n' [baga] bolovč [čadaltaj] (<čadal + *-taj*).

モンゴル: 馬:N 体:N 3PRC 小さい けれども 強い 能力 POS

(モンゴル馬は、その体はかなり小さいが、強靱です。) 【AE】

(77) Minij nas [zaluu] gevč biye [muutaj] (<muu + *-taj*).

1SG:G 年齢:N 若い けれども 体:N 悪い 悪さ POS

(私の年齢は若いですが、体は悪いです。) 【岡田 1989: 127】

(76)も(77)も逆接接続詞 *bolovč* と *gevč* を挟んで、前半節と後半節の意味が対比されている。前半節に現れる述語は非派生的な叙述形容詞 *baga* 「小さい」、*zaluu* 「若い」であるが、それらと対比される後半節の述語の位置には、各々、*čadaltaj* 「強靱な」、*muutaj* 「悪い」の *-taj*<sup>3</sup> により形成される派生的な形容詞が占めている。つまり、*baga* と *čadaltaj*、*zaluu* と *muutaj* は述語の働きをする形容詞として等しいステイタスを持つと考えてよいのである。

### 3.2. baj-型所有文

*baj-*は、2.2 節で見たように存在文に現れるだけでなく、所有文にも用いられる。その文型は、次の通りである。

(78) [与位格形 NP: NP-d/t] + [主格形 NP: NP-∅] + [*baj-*]

(78)は(19a)とまったく同じ形であるが、それぞれの名詞句の指すものが異なる。与位格形名詞句は存在の場所ではなく所有者(possessor)を、主格形名詞句は存在者/物ではなく所有物(possessee)を表す。また、存在文には(19b)のような与位格形名詞句と主格形名詞句の入れ替わる文型があるが、所有文にはそのような文型は見当たらない。

*baj-*型所有文にも、*-taj*<sup>3</sup> 型所有文と同様に、物の所有、人の所有、そして属性の所有の三つのタイプの所有を見出すことができる。

<物の所有>

(79) Nadad žaaxan yavuul-a-x yum *baj-na*.

1SG:D/L 少し 送る-EP-NPS 物:N ある-PRS

‘I *have* a little something to send.’

(私にはちょっと送る物があります。) 【HA: 98】

(80) Tüünd xeden xurdan mor' *baj-dag*.

3SG:D/L いくつかの 速い 馬:N いる-HBT

‘He *owns* some fast horses.’

(彼には足の速い馬が数頭います。) 【K&Ts: 192】

(79)の「送る物」は送ってしまえばもはや手元にはないのだから、一時的な所有とすることができる。一方、(80)の「数頭の馬」は財産として所有されているのであるから、恒常性を帯びていると解釈される。参考に挙げた英語訳に見るように、その違いを‘have’と‘own’で訳し分けることができるだろう。いずれにしても、所有者と所有物は、分離可能な所有関係にある。

<人の所有>

(81) A: Tand xüüxed **baj-na** uu?

2SG:D/L 子ども:N いる-PRS Q

(あなたはお子さんがいらっしゃいますか。)

B: Nad neg xüü, neg xüüxen **baj-na**.

1SG:D/L 1つの 息子:N 1つの 娘:N いる-PRS

(私には息子が一人、娘が一人います。) 【HA: 127】

(82) Čamd ojr xamaat sadan **baj-na** uu?

2SG:D/L 近い 親類:N いる-PRS Q

(君には近親者がいますか。) 【CD: 495】

人の所有は、所有物が(81)の「子ども」、「息子」、「娘」、(82)の「近親者」のように、親族(kin members)に限られるように見える。所有の形態は、不可分離的で恒常的である。

<属性の所有>

(83) Tand üünijg med-e-xüjc čadvar **baj-g-aa** yuu?

2SG:D/L これ:ACC 知る-EP-POSBL 能力:N ある-EP-IMPF Q

(あなたにはこれを知り得る能力がおありですか。) 【K&Ts: 153】

(83)の所有物「能力」は、所有者「あなた」に備わった不可分離的な属性を示す。

### 3.3. bij-型所有文

2.1 節で見たように、bij は一般的に存在文を作る不変化詞であるが、まれに所有と解釈される文に登場する場合がある。その際の語順は、存在文とまったく同じである。

(84)=(7) [与位格形(Dative-Locative)NP: NP-d/t] + [主格形(Nominative)NP: NP-∅] + [bij]

ただし、与位格形名詞句は所有者を、主格形名詞句は所有物を表す。

(85) Čamd talx *bij* yüü?

2SG:D/L パン:N ある Q

(君にはパンがありますか。) 【K&Ts: 85】

(86) Baatar-t olon xurдан mor' *bij*.

バートル-D/L たくさんの 速い 馬:N いる

(バートルはたくさんの足の速い馬を持っています。) 【K&Ts: 85】

(85)では所有者「君」の所有物「パン」の一時的所有の有無を尋ねている。(86)では所有者「バートル」の所有物「馬」のある程度持続性のある所有を記述している。*bij*は時制も相も取らないので(86)のような例と用法上しっくりするのは当然として、現在時における一時的な所有という時間性を含意する例でも用いられるのである。なお、両者とも分離的な所有と理解できる。

*bij*の所有表現は、同じ所有表現の *baj*-との交替例からも確認することができる。

(87) A: Tand ax düü *baj*-na uu?

2SG:D/L 兄 弟:N いる-PRS Q

(あなたには兄弟がいらっしゃいますか。)

B: Nad gурvan ax neg бүстеj düü *baj*-na, deer n' bas xoyor egč

1SG:D/L 3+ 兄:N 1+ 男の 弟:N いる-PRS 上に 3PRC また 2+ 姉:N

neg бүсгүj düü *bij*.

1+ 女の 弟:N いる

(私には三人の兄と弟が一人います。さらにまた、二人の姉と妹が一人います。)

【HA: 127】

(87A)では「兄弟」の所有を *baj*-で尋ねている。応答の(87B)を見ると、前半節では *baj*-が用いられているのに対し、後半節では *bij* が現れている。二つの節は共に「私」の「兄弟」と「姉妹」の所有、不可分離的で恒常的な所有を記述しており、意味の上での違いはない。

#### 4. 結論

2節及び3節を通して、存在表現と所有表現のあり方には離接的なカテゴリーではなく連続的な傾斜(*cline*)が見て取れる<sup>12)</sup>。モンゴル語では、存在文、所有文のそれぞれにこの種の傾斜が見られるばかりか、存在文と所有文の間にも連続体が観察される。

(88) 存在文(Existential sentences) :

←more prototypical

*bij* ([D/L: PLACE]+[NOM: ENTITY] ~ [NOM: ENTITY]+[D/L:PLACE]) >

*baj-* ([D/L: PLACE]+[NOM: ENTITY] ~ [NOM: ENTITY]+[D/L: PLACE]) >

*-taj<sup>3</sup>* ([NOM: PLACE]+[N-taj<sup>3</sup>: ENTITY])

less prototypical→

(89) 所有文(Possessive sentences) :

←more prototypical

*-taj<sup>3</sup>* ([NOM: POSSESSOR]+[N-taj<sup>3</sup>: PERSON/THING/ATTRIBUTE POSSESSEE]) >

*baj-* ([D/L: POSSESSOR]+[NOM: PERSON/THING/ATTRIBUTE POSSESSEE]) >

*bij* ([D/L: POSSESSOR]+[NOM: PERSON/THING POSSESSEE])

less prototypical→

(90) 所有文の*-taj<sup>3</sup>*の形容詞への傾斜 :

←more nominal

more adjectival→

[POSSESSEE: THING/HUMAN] > [POSSESSEE: ATTRIBUTE]

(88)では、*bij*がプロトタイプの、*-taj<sup>3</sup>*が非プロトタイプの存在文を表すことを示している。(89)ではプロトタイプ性が逆転し、*-taj<sup>3</sup>*がプロトタイプの、*bij*が非プロトタイプの所有文を表す。存在文、所有文どちらも、*baj-*は中間の過渡的な部分を占めている。所有文の*taj<sup>3</sup>*は、(90)で見るように、所有物(POSSESSEE)が[属性(ATTRIBUTE)]を示すにつれて、形容詞に傾斜していく。

(88)と(89)を合わせた傾斜は、次のようになる。

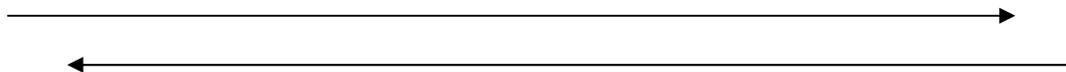
(91) <存在>

*bij*

*baj-*

<所有>

*-taj<sup>3</sup>*



*baj-*は存在文と所有文を広範囲に渡ってカバーするが、両者を区別する特徴はないのだろうか。この点も含めて、存在文と所有文の特徴を<文型>、<存在場所/所有者の有性性(Animacy)>、<存在者・物/所有物の指示対象>、<時制/相(Tense/Aspect)の有無>、<その他>の五点からまとめて表にすると、次のようになる。

(92) 存在文の特徴

	<i>bij</i>	<i>baj-</i>	<i>-taj<sup>3</sup></i>
文型	[D/L:PLACE]+ [NOM:ENTITY] /[NOM:ENTITY]+ [D/L:PLACE]	[D/L:PLACE]+ [NOM:ENTITY] /[NOM:ENTITY]+ [D/L:PLACE]	[NOM:PLACE]+[N:ENTITY]
Animacy	[-animate]/ それに準ずるもの	[-animate]/ それに準ずるもの	[-animate]
指示対象	[物]/[人] ?[属性]	[物]/[人] ?[属性]	[物]/[人] ?[属性]
時制/相	NA	OK	OK
その他	[D/L:PLACE]を基準 点にしての [NOM:ENTITY]の位 置関係表示あり	[D/L:PLACE]を基準 点にしての [NOM:ENTITY]の位 置関係表示あり	—

(93) 所有文の特徴

	<i>bij</i>	<i>baj-</i>	<i>-taj<sup>3</sup></i>
文型	[D/L:POSSESSOR]+ [NOM:POSSESSEE]	[D/L:POSSESSOR]+ [NOM:POSSESSEE]	[NOM:POSSESSOR]+ [N:POSSESSEE]
Animacy	[+human]	[+human]	[+animate]/[-animate]
所有物	[物]/[人] ?[属性]	[物]/[人]/[属性]	[物]/[人]/[属性]
時制/相	NA	OK	OK
その他	—	—	所有物が[属性]に限 定されると形容詞化

*bij*、*baj-*、*-taj<sup>3</sup>* は共に文型を変えずに存在文と所有文に関与する。ただし、*bij* と *baj-* は、存在文では与位格形名詞句と主格形名詞句の順序が入れ替わる二通りの文型を許しているのに比べ、所有文では与位格形名詞句の後に主格形名詞句の続く文型しか認められていない。<存在場所/所有者の有性性(Animacy)>に関しては、存在文は三型とも[-animate]の名詞句である。このうち *bij* と *baj-* の欄に記述された「それに準ずるもの」とは、たとえば、“Dorž-i-d 「ドルジの所に」”のように、本来それ自体では場所を表さない名詞が与位格形を取ることで場所を表示する場合である。所有文は、*bij* と *baj-* で<有性性>の制約が厳しく[+human]名詞句しか許さないのに対し、*-taj<sup>3</sup>* ではそのような制約がなく、[-animate]、[+animate]の両方を取るこ

とができる。<存在者・物/所有物の指示対象>については、存在文では三型すべて[物]と[人]は見出されるが[属性]の例は見つけられなかった。一方、所有文では、bij に[属性]は見出されないものの、baj-, -taj<sup>3</sup>では[属性]を含め三つのタイプの指示対象を網羅していた。<時制/相の有無>では、予想される通り、不変化詞の bij には<無(NA)>が当てはまる。<その他>で従来あまり指摘されて来なかった事実として、bij と baj-では存在文に位置関係を示す場合がかなりの程度存在する。-taj<sup>3</sup>は所有物の指示対象が[属性]に特化されるに従って、所有表示接尾辞から形容詞形成接尾辞に文法化されていく。従来の説明で語られるような「可能性/見込み」、「既知性/未知性」、「一時性/恒常性」、さらには「分離性/不可分離性」は、的外れとまでは言えないにしろ、本質的なものではなく、しばしば言語事実を正しく捉えてはいないことがわかった。

存在文と所有文を文型という形からだけではなく、意味の面からも捉えると、bij, baj-, -taj<sup>3</sup>が重複する部分を共有しながらも、各々独自の守備領域を持っている実態が浮かび上がってくるのである。

## 謝辞

\* 本論文を執筆するに当たって、室蘭工業大学の塩谷亨氏から貴重な資料とご教示を賜った。心から感謝申し上げたい。なお、観察と考察の不備、データの不正確さ、誤記等の責任はすべて筆者一人が負うものである。

## 注

- 1) モンゴル語には語幹の母音に従って一定の交替形を取る母音調和という形態音韻論的な規則がある。  
-taj の右肩の数字は、交替形の数を示す。なお、-taj には-taj/-tej/-toj の三つの交替形がある。
- 2) 与位格形接尾辞には-d(-d)と-t(-r)の二種類の交替形がある。語幹が-g, -r, -s で終わる場合には-t が、その他で終わる場合には-d が付加する。
- 3) 与位格形名詞句の他に、場所の副詞 end, tend、位置関係を示す後置詞付き名詞句も用いられる。  
i. **End** xūn bij. <場所の副詞>  
ここに 人:N いる  
(ここに人がいます。) 【AE】  
本稿では、両者も含めて考察の対象とする。
- 4) グロスの省略記号の対応は、次の通りである。

ABL: Ablative(奪格形), ACC: Accusative(対格形), ASR: Assertive(断定形), ASS: Associative(融合形), CMT: Comitative(共同格形), CLC: Collective(集合形), CNF: Confirmative(確認形), CNT: Continuative(継続形), D/L: Dative-Locative(与位格形), EMP: Emphatic(強調形), EP: Epenthetic(挿入要素), FOC: Focalizer(焦点化詞), G: Genitive(属格形), HBT: Habitual(習慣形), ICC: Imperfective Coordinative(未完了等位形), IMPF: Imperfective(未完了形), INS: Instrumental(具格形), n: Hidden n(隠れた n), NP: Noun Phrase(名詞句), NPS: Nonpast(非過去形), PF: Perfective(完了形), POS: Possessive(所有形), POSBL: Possible(可能形), PPST: Perfective Past(完了過去形), PRS: Present(現在形), PST: Past(過去形), Q: Question(疑問形), QUT:

Quotative(引用形), REF: Reflexive-Possessive(再帰所有形), RPST: Recent Past(近過去形), TMN: Terminal(終端形), TOP: Topic(トピック形), 1SG: First Person Singular(第1人称単数形), 2SG: Second Person Singular(第2人称単数形), 1PL: First Person Plural(第1人称複数形), 2PRC: Second Person Possessive Proclitic(第2人称所有後接語), 3PRC: Third Person Possessive Proclitic(第3人称所有後接語), ∅: Zero Form(ゼロ形), +: Attributive Marker(修飾標示), :: Inflection Marker(屈折標示)

5) 引用文献の省略記号の対応は、次の通りである。

AE: Attested Example, CD: Hangin(1970), HA: Hangin(1997), 金岡(2009), K&Ts: Kullmann and Tserenpil (1996), L: Luvsanzav et al.(1976), MX: Bjambasan(1979), MYA: Araj et al.(1990), O: 小沢(1986), 岡田(1989), ÖS: Ödrijn Sonin(Online Newspaper), S-B: Sanders and Bat-Ireedüj(1999), U: Šarav, et al.(1978).

6) baj-na については 2.2 節で詳述する。

7) 主格形名詞句が先行する場合でも、与位格形名詞句の他に、場所の副詞 *end*、*tend*、位置関係を示す後置詞付き名詞句も用いることができる。

8) *bij* 同様、*baj-*でも与位格形名詞句の他に、場所の副詞 *end*、*tend*、位置関係を示す後置詞付き名詞句も用いられる。

i. *Minij nom end baj-na.* <場所の副詞>

1SG:G 本:N ここに ある-PRS

(私の本はここにあります。) 【AE】

ii. *Taniy nom minij cünx-ij derged baj-na.* <後置詞付き名詞句>

2SG:G 本:N 1SG:G 手揚げ鞆-G 傍らに ある-PRS

(あなたの本は私の手揚げ鞆の傍らにあります。) 【AE】

9) *-taj<sup>3</sup>* の所有表現については、3 節で展開する。

10) 不可分離的所有については Hilary Chappell and William McGregor (1996)を参照のこと。

11) *ažee* は *a+žee* に分割できる。*a-*は「ある、いる」という存在を表す動詞、*-žee* は完了過去形接尾辞である。ただし、現在では一つの要素として、*ažee* もしくは短縮形 *až* 「～であった」で用いられる。

12) 所有形の連続体(*cline*)については Taylor(2000)、角田(1977, 2009)を、存在文の連続体については Quirk et al. (1985)を参照のこと。

## 参考文献

- Araj, Šin-ichi, et al. (eds.) (1990) *Mongol-Yapon yarjaaniy devter*. Ulaanbaatar: Ulsiyn Xevlelijn Gazar.
- Bjambasan, P. (ed.) (1979) *Mongol xel 5 angi*. Ulaanbaatar: BNMAU Ardiyn Bolovsrolyin Yaamniy Xevlel.
- Chappell, Hilary and William McGregor (eds.) *The Grammar of inalienability: A typological perspective on body part terms and the part-whole relation*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Hangin, John G. (1970) *A concise English-Mongolian dictionary*. Bloomington: Indiana University.
- \_\_\_\_\_ (1997) *Intermediate Mongolian*. [reprinted] Richmond: Curzon Press Ltd.
- 風間伸次郎. (1999) 「ツングース諸語における指定格について」『語学研究所論叢』第4号, 51-79.
- 金岡秀郎. (2009) 『実用リアルモンゴル語—わかりやすい文法ナビ—』明石書店.
- Kullmann, Rita and D. Tserenpil. (1996) *Mongolian grammar*. Hong Kong: Jenco Ltd.

- Luvsanzav, Čoj. (ed.) (1976) *Mongol xel bičig*. Ulaanbaatar: BNMAU Sajd Nariyn Zövlölijn Ulsiyn Deed, Tugaj Dund, Texnik Mergežlijn Bolovsroliyn Xorooniy Xevlel.
- 岡田和行 (編訳) . (1989) 『モンゴル語教科書 (外国人向け)』 東京外国語大学語学教育研究協議会.
- 小沢重男. (1986) 『増補モンゴル語四週間』 大学書林.
- Poppe, Nicholas. (1970) *Mongolian language handbook*. Washington D.C.: Center for Applied Linguistics.
- Quirk, Randolph, et al. (1985) *A comprehensive grammar of the English language*. London/New York: Longman.
- Sanders, Alan, J.K. and Jantsangiin Bat-Ireedüi. (1999) *Colloquial Mongolian: The complete course for beginners*. London/New York: Routledge.
- Šarav, C., et al. (1978) *Unšix bičig*. Ulaanbaatar: Ardiyn Bolovsroliyn Yaamniy Xevlel.
- 塩谷茂樹. (2007) 『モンゴル語ハルハ方言における派生接尾辞の研究』 大阪外国語大学.
- Street, John C. (1997) *Khalkha structure*. [reprinted] Richmond: Curzon Press Ltd.
- Taylor, John R. (2000) *Possessives in English: An exploration in cognitive grammar*. New York: Oxford University Press.
- Tsunoda, Tasaku. (1997) "Expression of Possession in Warrungu of Australia," in Hayashi, Tooru and Peri Bhaskararao (eds.) *Studies in possessive expressions: A report of the joint research project analysis and description of individual languages and linguistic typology*, 11-115. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.
- 角田太作. (2009) 『世界の言語と日本語—言語類型論から見た日本語—<改訂版>』 くろしお出版.

#### 執筆者紹介

氏名：橋本邦彦

所属：室蘭工業大学大学院工学研究科ひと文化系領域

Email：92hashimot@gmail.com